長洲町立長洲小学校　校長便り　№１８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年６月２０日(月)

雑感

４月の終わり頃から、我が家はメダカの誕生が続いている。義父のメダカを貰い受け、息子達と私が育てているメダカだ。いつの間にか藻に卵を産み付けているので、それを素手で取っていく。卵は案外強いもので、少しくらいの力では潰れない。自然界畏るべしである。

最近メダカは空前のブームらしい。何でも、違う種類のメダカを交配させ違う種類を作り出すとそれが数万円で売れるのだそうだ。高いものは百万円を超えるというから驚く。我が家のメダカも交配が進み、何とも言えない模様のメダカがタライの中を乱舞している。眺めながら、癒しの時間となっている。

【雑感】梅雨を有意義に過ごす　～ゲームと読書～

梅雨、雨で外出が億劫になり、子ども達はゲーム三昧…!?　そんな生活が心と体に良い訳がありません。

さて、ゲームのおもしろさについては私も体験しておりますので、十分理解しています。２０年程前、甥っ子からゲームを借りてやってみました。ゲーム機本体も甥っ子に借りて、さてとゲーム開始。どうしたことでしょう、中々ゲームがやめられないのです。一日で終わってしまうゲームではないので、時間を決めればいいのについつい長くなってしまうのです。そしてふと時計を見ると何と午前2時。そんな生活が数日過ぎました。

私たちの世代が子どもの頃は家庭用ゲーム機なんて無かった時代ですから、遊びは自分たちで工夫するしかなく、空き缶一つとっても「缶蹴り」だけでなく、他にも多くの遊びを考えていました。今の時代、ものが溢れ、目の前に必要な物が揃っているので想像（創造）力を働かせる場面が無いんですね。

話が飛躍してしまうのですが、私は子どもの頃に伝記を読むのが好きでした。その中でも、日本で初めてノーベル賞を受賞した「湯川秀樹」の話は面白かったです。湯川秀樹博士の「中間子理論」は物質を構成する最も小さい粒「原子」、その中に「中間子」というものが存在するというものです。極初期の顕微鏡の頃は植物を見てもある程度以上は見えないから、もっと拡大したらどうなっているのだろう?なんて世界は、想像するしかないんですよ。だからこそ創造力によって、電子顕微鏡が生まれるわけです。今はもっと詳しく見たいと言えば、「では、電子顕微鏡でどうぞ。」って言われて想像力なんて働かないんですよね。湯川秀樹博士の「中間子理論」なんて結局のところ想像の産物であって、それが後になって確認されるわけですから、新しい発見などは、みんな想像の産物と言えるのでは無いでしょうか。要するに想像力が先行していないと、新しい発見ができにくいということです。そして湯川秀樹博士は「中間子理論」を発表するにあたり、相当数の読書と学習があったと聞いています。新しい発見や知識の習得には、基礎基本の知識と努力に裏付けられた、想像力と創造力が必要なのです。

ここで話をもとに戻しまして、ゲームやテレビ等の情報は、視覚的且つ受動的且つ流動的な情報といえると思います。更にゲームやテレビは、想像力や創造力が発達するのを阻害します。ゲームやテレビがあるのが当たり前のようになってしまった今日、ゲームって本当に必要なのでしょうか。それよりも、「読書デー」を設定したらどうでしょう。できれば「親子読書デー」なんてのは如何でしょう。親子の会話も増えるような気がします。我々が目指す「質の高い学び」は、知識やスキルを自ら学び取るという子ども達の姿を目指しています。読書量によって、間違いなく「質の高い学び」に近づきます。

このような文章を書きながら、では私はどうかと考えた時、冷や汗ものです。いつ読書や親子の会話をしているのでしょうかねぇ。反省！

シリーズ「自分を語る」#18

子ども時代の事を書くと、保護者の皆様からの反響が大きく嬉しく思っていますが、子ども達が真似しないかと多少の不安も抱えております。保護者の皆様、そこはご協力をお願い致しますね。

そういえば、最近の子ども達は火を使う機会が殆どないようですね。我が家で、ケーキのロウソクに火を点けるのは大人の役目ですが、数年前、娘に点けさせようとしたところ、何と怖がるのです。驚きました。「アルコールランプに火を点けたことは無かった?」と、思わず叫ぶと、「だって、怖いもん…。」だそうです。我々が子どもの頃は、こっそりマッチを持ち出して、爆竹で遊んだり、花火をしたりしたものですがね。そして、先生に怒られるんです。私の両親の世代は「焚火」で遊ぶのは当たり前だったと言います。「今の世の中」で、仕方のないことなのかもしれませんが、マッチやライター、ガスコンロの使い方等々、全てを大人が教えなければならない時代のようです。そうそう「肥後の守」という小刀で遊んだことのある人は、我々の世代には相当数いらっしゃるのではないのでしょうか。山の中や野原での遊びに使うこともありますし、鉛筆を研ぐ（私は鉛筆を〝研ぎる〟と言っていましたが、保護者の皆様は如何でしたか?）時にも使いますし、遊び道具を作る時にも使いました。今では「肥後の守」はホームセンターにでも売ってあるのでしょうか?　昔は駄菓子屋にも売ってあったのですが。このような話題を提供しながら、今では刃物の扱いも危険だからという理由で禁止になっているところが殆どです。

先ほど爆竹のお話をしましたが、我々が子どもの頃は当然の如く駄菓子屋や地域の商店に売ってありました。買わないはずがありません。で、どんな遊びをしていたのでしょう?　私の場合、団地に住んでいましたのであまり派手なことができる生活環境にありませんでした。爆竹に着火後どれだけ長く手に持っていることができるかなんて遊びでは、投げる瞬間耳元で破裂し、耳がキーンとなることや指先の怪我等は日常茶飯でした。そこで、先般お話しした地域の山〝岩倉山〟に出かけていき、そこで様々なことを行動に移しました。爆竹の威力が知りたいということで、山の中で小枝にはさみ着火!　パン!という音と共に枝が微塵に!　それを目の当たりにすると色々な〝実験〟をしてみたくなるものです!?　丁度いい所に〝カナブン〟が飛んできました。早速捕まえて…!?　ここから先は書けませんので、気になる方は澤田までお問い合わせください!?　そうそう、女の子の遊びはゴム飛び等をよく覚えていますが、未知の世界でしたね。マンガ本を読む子もいました。確か「マーガレット」?とか「なかよし」とか?　この世代の保護者の皆様もいらっしゃるのでは?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）